

「大徳寺座禅体験」感想文

1年ICA組 女子

大徳寺という寺が京都にある有名な寺の一つと思うくらいで、どれくらい大きいのか全然知りませんでした。けれども、金曜日に「座禅体験」をさせていただきに行かせてもらい、中に入ってからの広さとたくさんの寺の数に驚きました。そして何と言っても、自然の中に居るという静けさに驚きました。座禅体験はとても不安でしたが、体験してみるとすごく気持ちがすっきりとして刺激的な良い体験になりました。心が落ち着く時間となり良かったです。それに、この体験も茶道のお話、茶道体験もすべて一つ一つがとても印象深い体験となりました。

和尚様のお話は、一言一言にとっても説得力がありました。精神を統一するため、清らかな心を持つためには、「己がまずそう強く願うことから始め、それを忘れず努力し、苦勞をすることが大切だ。」という内容を話されていて、「努力をされた経験者だからこそ説得力があるんだ。」と思いましたし、とてもその生き方を貫く精神が、かっこよかったです。

やはり今回の体験は、留学という他文化の社会での生活をする私たちにとって、他人の生き方を尊重する広い心をもてる機会になりました。まだまだ子供である半人前にもならない私が、こんな体験をさせていただけた運命に感謝して、皆さんの温かい心に感謝して、この経験が無駄にしないように勉強にもより力を入れて頑張りたいと思います。

将来、今回の貴重な体験が活かせるよう留学という場でその人生の練習をしていきたいです。すばらしい体験に感謝します。

1年ICB組 女子

人生で初めて座禅を体験しました。座禅というものをテレビなどでしか見たことがなかったので最初は不安でしたが、自分が考えていた以上の静けさと無になれたことに驚きました。自然と耳に入ってくる鳥の鳴き声と部屋に入ってくる風が、まるで自分が誰も人がいないところにいる様な感覚にさせてくれました。きっとあの鳥の鳴き声も風も、動いていたり、人と話しをしていると感じられないと思います。改めて、自然への感謝に気づかされました。人は一人では絶対に生きていけない。自然に生かされていると実感が出来ました。足を組み、長時間座っていることは普段ないことなので、始まってすぐは慣れなくて座りにくかったです。

平成待庵を見学させていただき、驚いたことが沢山ありました。まず、天井の低さでし

た。手を伸ばせばすぐに届きそうなほどでした。次に驚いたのは照明のようなものが何一つ部屋にはありませんでした。あったのはいくつかの窓でした。しかし、窓からも少し光がさしているだけで、昼下がりでも薄暗く感じました。照明がなくては真っ暗で、何も見えないと思った私は考えが浅かったです。「暗いと、壁も窓も何も見えないので逆に開放感がある。」それを聞いて納得しました。そんな風にはなかなか考えません。思いつきもしません。そんな空間で飲むお茶はどう感じるのでしょうか。すごく気になりました。明るいところで頂くお茶しか知らなかったのも、お茶の飲み方、楽しみ方は色々あることも学びました。

茶道は始めたばかりなので、知らないことはまだまだ沢山あります。これから学んでいく中で今回の大徳寺研修で教わったことを忘れずに一回一回の授業に取り組んでいきたいと思えます。貴重な体験をさせて頂いたことに感謝し、自然へのありがたさを感じて日々精進していきたいと思えます。

1年 ICB組 女子

茶道の学習の一環として大徳寺を訪問させて頂きました。私の祖母は茶道をやっておりその影響で私も大徳寺に行ったことが何度かありました。しかし、今回は座禅体験などもさせて頂けるといことでとても楽しみにしていました。

はじめに金毛閣について説明していただきました。これは1589年に千利休が築いたもので、重層でとても豪華な雰囲気でした。しかし、この山門が利休を切腹へ追いやるきっかけになったと知りました。雪駄をはき、杖をひいている利休の木像が秀吉もくぐる山門の上に置かれていることの不敬が指弾されたというのです。ただ木像を置くことは利休の要求ではなかったそうなので、本当のことは分かりません。でも真実がどうであれ、歴史ある素晴らしい山門であることには変わりありません。機会があれば中も拝見してみたいと思えました。次に見学をさせて頂いた聚光院には、たくさんのお墓がありました。一般公開はしていないそうなので、貴重な経験ができてよかったです。最後に瑞峯院でいろいろな体験をさせて頂きました。庭園には見事な枯山水が描かれていて、打ち寄せる波の様子を感じることができました。座禅体験は途中で集中力が切れてしまったので、もっと精神的に強くなれないといけないと思えました。お茶席では短い時間だったけど、風情を感じながら楽しくいただくことができました。そして利休が唯一残したとされる二畳の席を復元した待庵にも入らせていただくことができました。とても小さく感じたのですが、これこそが茶道のわびの精神そのものを表した茶室だと思います。

今回のことで、長らく休んでいたお稽古を再開し、お茶の世界を楽しもうと思うことができました。